日本中国語学会々報　2018年6月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶 1
支部例会実施報告　2018.1-2018.5 2
会議報告 4
全国大会および例会開催のお知らせ 9
事務局からのお願いとお知らせ 9

ご挨拶

大西克也（日本中国語学会会長）

昨年 11 月の全国大会で会長に選出された後、どのように学会に向き合うのかを何時からともなく考えるようになりました。自分が果たして 1100 名を超える会員の方々の負託に堪えうるのかという不安のなかから次第に浮かび上がってきたのは、学会の活動が研究分野に偏重しているのではないかという漠然とした疑問でした。

本会の活動は、研究に関してはむしろ活発に行われています。昨年度 1 年間を振り返ると、全国大会では 58 件の招待講演・一般発表・ポスターセッションが行われ、さらに 13 回開催された各地支部例会において 38 件の研究発表が行われました。大会を引き受けてくださった開催校や例会世話人の方々のご苦労を思うと感謝の他ありません。またこれらは個々の会員の日々の研究活動に支えられていることは言うまでもありません。学会誌『中国語学』は編集委員会と査読者の献身の賜物です。会員諸氏の研鑽の成果が結集された『中国語学辞典』は、完成の暁には斯界を広く裨益することとなるでしょう。

しかしその一方で、学会がこのような研究活動の支援に終始するだけで果たして良いのかとも思い始めました。その背景には日本の大学と人文学が置かれている現状があります。人員と予算削減により、非常勤講師や集中講義も満足に手当てすることができず、学生・院生は限られた情報にしか接することができません。もはや単独の大学では十分な教育を担いきれず、中国語学・人文学が総体として先細りすることが懸念されます。このような状況に梃入れし、日本の中国語学教育を補完していくことも学会の務めではないでしょうか。

本会会則第 2 条は、「本会は，中国語学及び関連諸領域の研究を通じ，言語の科学的研究と中国語教育に貢献することを目的とする」ことを定めています。先月行われた理事会では、会員が最新の研究の現場に触れつつ、気軽に情報交流ができるある種の講習会のような場を提供することができないかとの提案を行い、検討のためにＷＧを設置することを認めていただきました。秋の大会では検討状況についてのご報告を行いたいと思います。

上古中国語を主な専門とする私は、若かり

し頃日本に同分野の研究者が少なかったこともあり、論文は中国語で書いてこそ意味があると考え、あまり日本語で書きたいとは思いませんでした。しかし何かと英語の重要性が強調される現在、改めて日本語で発信することの意味を考えさせられます。水村美苗さんが『日本語が亡びるとき　英語の世紀の中で』で描いているように、明治以来、先人たちは欧米の文献を学び、日本語で書き続けてきました。それが日本語を森羅万象、あらゆる学術を語り得る言語に育て上げました。何にでも対応できる日本語が、日本の学術の強みになっていることは疑えません。一方、国際的な場における日本語の限界も事実です。外国語を研究領域とする日本の学会として、国際的な研究交流の展開と日本の学術の発展、この二者をどのように両立させていくかも問われます。会員の皆さまのご鞭撻、ご助力を切にお願い申し上げます。

支部例会実施報告　2018.1-2018.5

◆関東支部例会

◇ 2018 年 2 月 3 日（土）東京大学駒場 I キャンパス　1 号館 1 階　101 教室

・ 落合守和（首都大学東京・客員教授）中国語学講義三十種について

前世紀 70 年代から 2000 年代まで三十年にわたり，中国語学を中心とし中国文学・言語学など周辺分野を含む，東京都立大学・早稲田大学・長崎外国語大学などでの授業科目の講義ノート数十冊が，2017 年 10 月，東京都多摩市の一隅から出現した。ノートの封面には①「中国語学特研・特論―仏典の漢訳と中国音韻学―，昭和五十一年度（１），人文学部　慶谷壽信」，②「中国語音韻史（Ⅰ）―有坂秀世論―，昭和五十六年度（早大・一文），同」，③「中国語学概説，昭和六十二年度・平成元年度，同」，④「言語学Ⅰ・Ⅱ」，平成十三年度，同」，などと記される。これらのノートについて初歩的調査の結果，判明したことがらを報告する。

・ 王振宇（中央学院大学）：湖南邵阳花鼓戏剧本的方言特征

邵阳花鼓戏是流传于湖南省邵阳市和周边县市的民间地方戏剧，使用的语言主要属于娄邵片湘语。本文以邵阳花鼓戏中最具影响力的两个传统剧目《打鸟》、《磨豆腐》以及改编自北方作家赵树理原著《小二黑结婚》的邵阳花鼓戏剧本为对象，将其与同剧目的音像材料、其它湖南籍作家小说的语言特征、相关的研究文献进行比照，描写出邵阳花鼓戏剧本中的方言特征。通过考察，我们发现邵阳花鼓戏剧本中使用了很多地道的传统方言，能对方言调查问卷起到很好的补充作用。但另一方面，剧本语言作为一种社会方言，它和实际在某一地区的日常生活中使用的地点方言存在一定的差异，具有“掺杂性”等特点以及“向官话和书面语靠拢”的倾向。

・ 齋藤萌（お茶の水女子大学・院）：「テイタ」形・「テイナイ」形との対応にみる中国語のアスペクト表現

本発表は、「テイタ」形・「テイナイ」形と中国語の対応関係を明らかにし、中国語におけるアス

ペクト表現の使い分けに関して考察を試みようとするものである。無意識に「テイタ」形と“動詞+了”を関連づけて運用の拠り所とする傾向が見られるが(楊永娟:2010)、近代小説の対訳を資料に考察を行ったところ、「テイタ」形に対応する中国語の表現のうち最も多かったものは“動詞のゼロ形式”であり、“了”が使用される用例は少数であることを確認した。また、日本語において「～したことがない」や「まだ」が明示的に現れないにもかかわらず、中国語で“过”や“还”を伴って表現される「テイナイ」形についても論じたい。

◆北陸支部例会

◇2018 年 3 月 17 日（土）富山大学五福キャンパス共通教育棟 A 棟 1 階 A11 ラーニング・コモンズ

・ 福田翔（富山大学教養教育院）：二重目的語構文の意味と用法：授与と取得

中国語の授与や取得を表す文は、二重目的語を伴い、その両タイプに共通する構文義は「主体の意図を伴う事物の所有権の移動」というように定義されてきた。このように同一の構文を形成する授与と取得の関係は、より使用頻度の高い授与タイプが活性化していると一般的には考えられている。しかし本研究では、取得タイプを主に研究対象として取り上げ、二重目的語構文の典型は取得タイプであることを、構文の定着度、文法的特徴、慣用性、動詞のタイプなどの考察を通して明らかにする。これは二重目的語構文に授与と取得の意味が重なる現象に対して、取得がもともとであったと分析する、方言や歴史資料を用いた研究にも一致する。

◆中国支部例会

◇2018 年 5 月 19 日（土）広島大学東千田キャンパス S 棟 1 階共用講義室

・ 丁雷（島根大学）：探讨篇章阅读时出现的声调偏误特征及“口音字”现象－以中级汉语学习者为对象－

字词水平上的单字调和多字调发音偏误属于日本大学生“声调难”问题的研究范畴（丁 2015）。而高于字词水平的语流中存在的声调发音偏误和“调音不准”现象也应该属于“声调难”问题的研究范畴。并且，相比较字词而言，在这一水平上出现的诱发偏误和“不准”产生的原因更加复杂，反映出“调间”的“融合”受到了不同来源的发音因素制约（丁 2016）。而目前“声调难”问题的研究大多立足于初级汉语学习者，集中解决字词水平的发音问题。对于字词以上（如：篇章水平）的问题几乎鲜有涉及。本研究在丁（2016）的基础上，以中级汉语学习者为对象，通过两年的语音数据积累，尝试探讨篇章阅读时出现的声调偏误特征以及比较具有代表性的“口音字”现象。

・ 盧濤（広島大学）：微信のハンドルネームに関する一考察

ここ数年、WeChat（微信）は SNS で広範に使われている。その交信には様々なコミュニケーションの現象が観察されるが、ハンドルネームの命名法は関心が惹かれる研究課題の 1 つである。発表者が 2017 年 5 月下旬から 6 月上旬まで、549 名の中国出身者と推測される個人を調査対象に、実名を除いたハンドルネームの命名と使用の動機づけに関する調査を実施した。本発表は、その調査結果を公開し、中国語ハンドルネームの類型とその命名動機づけを記述し、言語行動、情報行動の観点から見たハンドルネームの形成原理及び自己開示、自己呈示といったコミュニケーション上の機能と効果を分析しながら、固有名詞の成立を追求する従来の命名理論の検証と修正を試みる。

会議報告

■ 編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』265 号）

日時：2018 年 3 月 17 日（土）13 時～17 時

場所：大学共同利用施設 UNITY（ユニティ）２階・共同研究室

出席者：秋谷裕幸（委員長）、王亜新、橋本永貢子、石崎博志、竹越孝、遠藤雅裕、丸尾誠、雷桂林（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』265号の投稿論文について

・ 投稿総数16篇のうち、審査の結果、16篇すべてを受理した。16篇の内訳は：歴史音韻1、歴史文法2、現代語文法8、中国語教育2、その他3。受理した16篇の投稿論文について、担当者と査読者を決定した。5月19日（土）の第2回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

2. 2018年度学会奨励賞の候補者について

・ 『中国語学』第264号掲載論文からは学会奨励賞候補を推薦しないこととした。

3. 投稿論文・表紙ページについて

・ 投稿論文・表紙ページにつき、266号への投稿論文から学会ホームページからダウンロード可能な統一フォーマットによる提出を求める方向性を確認した。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』265 号）

日時：2018 年 5 月 19 日（土）13 時～17 時

場所：東洋大学・白山校舎 6 号館 1 階第 3 会議室

出席者：秋谷裕幸（委員長）、王亜新、橋本永貢子、石崎博志、竹越孝、遠藤雅裕、丸尾誠、雷 桂林（以上委員）

【議事】

1.『中国語学』265 号投稿論文の採否について

・ 受理した 16 篇の投稿論文について査読結果に基づいて審議した結果、１篇を採用、４篇を要二次審査、11 篇を不採用とした。要二次審査の４篇については、6 月 30 日（土）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行い、掲載の可否を最終決定することとした。

2.「『中国語学』投稿申込表」（仮称）について

・ 審議の結果、266 号より投稿論文「表紙」の名称を「『中国語学』投稿申込表」とすること、および作成にあたり学会ウェブサイト上のフォーマットの利用を投稿者に求めることが了承された。同時に「『中国語学』投稿申込表」の使用に合致するよう編集委員会において「執筆要領」の修正を行い、理事会に報告することとなった。

3. 新編集委員の推薦について

・ 本年度全国大会開催時に交替する編集委員会委員４名の後任につき種々の議論を行い、後任候補者２名が了承された。残る２名についてはメール審議を継続することとなった。

4. 巻頭特集について

・ 昨年度の大会講演をご担当いただいた邵敬敏氏（暨南大学）および張春利氏（暨南大学）に論文寄稿を依頼することとした。

■ 大会運営委員会

通信による持ち回り審議（2018 年 4 月 9 日）

委員：宮本徹（委員長）、荒木典子、飯田真紀、石村広、加藤晴子、下地早智子、鈴木慶夏、千葉謙悟、張盛開、吉川雅之、李佳樑

【審議事項】

1. 研究発表応募書類等の確認

・ 研究発表およびワークショップの公募に先立ち、ウェブサイト掲載の各種応募書類の修正・確認を行った。

2. 予稿集編集実務の委員会への移管について

・ 大会予稿集は従来開催校がその編集実務を担ってきたが、これは開催校にとって大きな負担となっている。本委員会は開催校の負担軽減と全国大会の安定的開催を目指す立場から、この 2 年間、委員会内に「編集サポート」を設置し、編集の補助的業務に当たってきた。そして今般、委員会内にある程度の経験が蓄積されたことから、本件について審議を行い、以下の通り決定した。

（1）第 68 回大会の予稿集から、その編集実務を本委員会が担う。

（2）委員会内に若干名からなる「予稿集編集チーム」を置く。

通信による持ち回り審議（5 月 10 日）

委員：同上

【報告事項】

1.第 68 回大会研究発表の査読体制等について

・ 委員会内に研究発表査読チーム及び予稿集編集チームを設置するとともに、その構成メンバーを確認した。

【審議事項】

1. 予稿集の電子化について

・ 大会予稿集の電子化には、経費の削減という財政面でのメリットだけではなく、原稿の形式上の制約をある程度緩和することが可能になること、予稿集を事前に入手することで、各発表について十分予習する時間的な余裕が生まれること等、多くのメリットが考えられる。委員会では電子化についてさまざまな側面から検討を加え、以下の点において意見の一致を見た。

（1）予稿集のアクセスには一定の制限を設ける（会員または参加者に限定）。

（2）なるべく低コストでこれを実現するとともに、開催校の負担増とならない方策を探る。

（3）財政上可能であれば参加費を値下げし、より広汎な会員の大会参加を促す。

（4）実施時期と冊子体の廃止時期については今後議論する。

なお、詳細な制度設計については、今後引き続き議論していくこととした。

■ 辞典編纂委員会

・ 入稿が遅延している『中国語学辞典』の作業再開について、4 月 17 日に平田委員長が岩波書店編集部を訪問し、現状の確認をおこなった。岩波書店側からは、既入稿の原稿を例に用いて、非専門家向けにどのように分かりやすく説明を補うかにつき具体的提案があった。これらの提案については、今後の改訂で反映させていく予定である。

■ 2018 年度第 1 回理事会

日時：2018 年 5 月 20 日（日）14 時～17 時

場所：東京大学赤門総合研究棟 7 階 701 号室（中国語中国文学共同研究室）

出席者：大西克也（会長）；三宅登之（副会長）；小野秀樹、佐々木勲人、竹越孝、山崎直樹、楊凱栄（以上理事）；秋谷裕幸（編集委員長）；平田昌司（辞典編纂委員長）；宮本徹（大会運営委員長兼幹事）；鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）；戸内俊介、野原将揮（以上幹事）

欠席者：加藤晴子（理事）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ 評議員交代

北海道支部：飯田真紀（北海道大）
→山田敦士（日本医療大）
鈴木慶夏（釧路公立大）
→章天明（小樽商科大）

関東支部：守屋宏則（明治大）
→平山邦彦（拓殖大）

東海支部：中西千香（愛知県立大）
→塩山正純（愛知大）

九州支部：植田均（熊本大）
→木村裕章（東亜大）
前田真砂美（立命館アジア太平洋大）
→馮蘊澤（熊本学園大）

・ 会計監査：朱鳳（京都ノートルダム女子大）
→小方伴子（二松大）
林範彦（神戸市外大）
→加藤宏紀（神奈川大）

1.2 会員動向（2018 年 4 月 1 日現在）

・ 会員数：

			増減
総会員数（賛助除く）		1136 名	－61
	（内訳） 顧問	5 名	±0
	名誉会員	22 名	±0
	通常会員	673 名	－45
	ネット会員	343 名	－11
	団体会員	7 名	±0
	海外会員	86 名	－5
賛助会員		22 社	－1

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。
2017 年度の除籍者は 41 名（国内会員 35 名／海外会員 6 名）。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部中国語中国文学研究室内

［事務支局］
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷株式会社　学会部内
担当：大西　佑佳
Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662
E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

・ 支部例会世話人交代

北海道支部：飯田 真紀（北海道大）
→山田 敦士（日本医療大）
九州支部：植田 均（熊本大）
→木村 裕章（東亜大）

・ 今年度の例会開催予定

北海道（山田　敦士会員）：　1 回
関　東（荒木　典子会員）：　3 回
北　陸（山田　眞一会員）：　1 回
東　海（丸尾　　誠会員）：　1 回
関　西（小嶋美由紀会員）：　2 回
中　国（荒見　泰史会員）：　2 回
九　州（木村　裕章会員）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

宮本委員長より次の報告があった。

（1） 委員の交代について

・ 退任：三宅登之理事（2018 年 3 月 31 日付）
・ 新任：加藤晴子理事（2018 年 4 月 1 日付）

（2） 第 68 回大会の準備状況について

・ 現時点での各種応募状況（ワークショップ）、研究発表の応募スケジュールについて報告があった。
・ 託児所については、第 68 回大会でも設置する方向で開催校と検討している。

（3） 予稿集の編集作業について

・ 第 68 回大会から予稿集の編集作業を開催

校から委員会に移管する。なお、今後は委員会内に編集チームを設けて作業に従事する。

（4）その他

・ 第 69 回大会の開催校については現在交渉中であるとの報告があった。

4. 編集委員会報告

秋谷委員長より、次の報告があった。

（1）『中国語学』265 号査読結果

・ 受理した投稿論文 16 篇（不受理 0 篇）について査読報告書に基づき採否の判定を行い、1 篇を採用、4 篇を要二次審査、11 篇を不採用とした。

（2）査読の外部委託について

・ 投稿論文 1 篇の査読を非会員に外部委託した経緯について報告があった。査読体制の再調整も含め、今後の検討課題とすることになった。

（2）『中国語学』265 号特集について

・ 邵敬敏氏（暨南大学）および張春利氏（暨南大学）に論文寄稿を依頼することとした。

（3）学会奨励賞候補者推薦について

・ 今年度は候補者なし。第一回編集委員会および第二回編集委員会での経緯の説明があった。

5. 辞典編纂委員会報告

・ 4 月に平田委員長が岩波書店編集部を訪問し、現状の確認を行ったこと、今後の方針についての説明があった。

6. 除籍者と再入会の扱いについて

・ 戸内幹事より今年度の状況について報告があった。

7. 会員情報の更新について

・ 前事務局からの検討事項として、会員情報の更新について事務局より報告があった。

（1）会員データの統一

・ 会員データの不統一が増加しているため、大会や例会開催時のデータ管理上で、しばしば問題が生じている。今年度の会費請求時に、各会員に所属機関と職名の確認と更新をお願いすることとした。

・ 職名については、該当する職名を選択する形式をとる。国内会員の場合、教授／准教授／助教／非常勤／院生／研修員の中から選択する。また名誉教授／専任講師／（客員）教授は、そのまま記載する。それ以外の場合は、上掲の選択肢の中から一番近いカテゴリーを選択する。海外会員の場合、教授／副教授／助教／講師／博士生／進修生の中から選択する。また「助理教授」は「教授」と混乱する恐れがあるため、「助教」と略記する。「碩士生／博士生」は区別せず「博士生」と表記する。

・ 具体的な凡例については、e-nafの会員登録情報にも掲載する。なおこの凡例は事務処理を目的としたものであり、今後も実情に応じて改訂することがある。

【審議事項】

1. 熊本地震に関わる会費免除について

・ 2018年度も引き続き会費免除の措置をとることが承認された。

2. 学会奨励賞の授賞について

・ 学会奨励賞の授賞者について、編集委員会の原案通り承認した。

3. 「『中国語学』投稿申込表」（仮称）について

・ 秋谷委員長より、「『中国語学』投稿申込表」（仮称）が示された。従来、「表紙」の書き方に不統一が見られたためであり、今回の変更はそれらを統一することを目的とする。「表紙」の名称を「申込表」とす

ることが承認された。また原案の「申込表」をさらに簡素化する方向で検討を継続することとなった。

4.『中国語学』電子化のスケジュールについて

・ 秋谷委員長より、『中国語学』電子化に向けたスケジュールが報告され、関連事項について意見の交換が行われた。

（1）アクセス制限の有無について

アクセスに制限をかける場合とフリーアクセスにする場合の利点と難点等について意見がかわされた。刊行からフリーアクセスに移行するまでの期間については、学会運営全般に関わる問題でもあることから、理事会で議論を継続することとした。アクセス制限をかける場合の技術的な問題については、ウェブリソース委員会に検討を依頼した。

（2）著作権規定について

電子版で出版するに当たっては、予め投稿規定を修正し、著作権規定との整合性を検討する必要がある旨が確認された。

（3）紙版から電子版への移行期間

紙版と電子版の平行期間を設ける点についてはすでに承認済みである。ただしどれくらいの期間を設けるかについては今後の検討課題である。

『中国語学』の電子化はすでに承認済み事項であるが、上記(1)(2)の問題が未解決であることから、265号からの電子化は困難であるとの結論に至った。また上掲の3点を含めた事項について、理事会、編集委員会、ウェブリソース委員会で検討を継続し、望ましい電子化のありかたについての結論を早期に得ることを目指すこととなった。

5. 予稿集の電子化について

・ 宮本委員長より、予稿集の電子化に関する委員会の見解が説明された。

（1）予稿集のアクセスには一定の制限を設ける（会員または参加者に限定）。

（2）なるべく低コストでこれを実現するとともに、開催校の負担増とならない方策を探る。

（3）財政上可能であれば参加費を値下げし、より広汎な会員の大会参加を促す。

（4）実施時期と冊子体の廃止時期については今後議論する。

以上の点に関して、今後も議論を継続することとなった。

6. IACL開催について

・ 竹越理事より、国際中国語言学学会第 27 回年次大会（IACL-27）が神戸市外国語大学で開催されることが正式に決定した旨の報告および日程等の概要が示された。

・ 本学会で積み立てている「国際会議開催支援積立金」の要望支出額（50 万円）とその使途について原案が示された。あわせて本学会会員への優遇措置案も示され、原案どおり承認された。なお、本学会会員へのより一層の優遇措置を希望する旨の要望があり、開催校として検討したい旨の発言があった。

7. 顧問・名誉会員の推挙について

・ ニューズレターに名誉会員の推挙依頼を掲載することとした。

8. その他

（1）「中国語学講習会」（仮称）の企画について

・ 大西会長より、人文学をめぐる大学の現状および学会の事業の研究偏重に対する懸念が示され、中国語学教育の支援・補完、最新の研究情報の提供、会員の交流の場の提供を目的とした「中国語学講習会」（仮称）の企画について原案が示された。

・ これに伴い、2019年夏に第1回「中国語学講習会」（仮称）を開催することを目標に、諸課題や実施体制を検討するためのワーキンググループを設置したい旨の提案があり、承認された。

全国大会および例会開催のお知らせ

第 68 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は神戸市外国語大学（兵庫県神戸市）にて 11 月 3 日（土）～11 月 4 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願いします。なお、発表の応募受付期間は 5 月 30 日（水）～6 月 13 日（水）日本時間 24 時までですが、本ニューズレター発行時点ではすでに締切りとなりました。7 月中旬に採択者一覧が、7 月下旬までに大会プログラムが学会ウェブサイト上にアップされます。（事務局）

今年度の例会実施予定

各支部の例会実施予定は次のようになっています。

北海道支部：1 回（9 月 21 日）
関東支部：3 回（6 月 30 日、12 月、2018 年 3 月）
東海支部：1 回（12 月）
北陸支部：1 回（2018 年 3 月）
関西支部：2 回（6 月 17 日、12 月）
中国支部：2 回（5 月 19 日、2018 年 1 月）
九州支部：2 回（7 月 7 日、12 月）

発表者、参会者ともに歓迎します。ただし、開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催予定、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しています。なお、開催に関する詳細は、各支部例会世話人までお問い合わせ下さい。（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

■ 名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて事務局宛にお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋 勸、乾 俊文、上野 倫代、大塚 秀明、

簡 靖倫、小鹿 洋子、朱 新建、髙岸 晃夫、張 芃蕾、陳 昭宜、布川 雅英、三野 園子、安本 真弓、山下 輝彦、湯山 トミ子、劉 乃華、張 群、李 嵩、東 会娟、張 睿、董 雪嬌、陳 小珍、鄧 冠明、王 正、劉 春芳、張 晨迪、朱 美英、李 穎清、許 挺傑、陳 述、郝 静、夏 心尭、賈 麗穎、劉 聡、樊 涛、鄭 琼花、賈 智、金 香、劉 宇飛、楊 鉄錚、王 玉、金 玉英、謝 美玲、陳 家隽、紀 宝紅、許 芸涵、崔 春子、李 婷、劉 玲、鄭 花、王 笑飛、丁 浩、李 勁栄、沈 庶英、梅 佳、陳 海涛、湯 明昱、王 煒煒、于 姝君、楊 洲、薛 晨、崔 盼盼、江 氷燕、陳 相偉（敬称略）

■ 2018 年度会費納入のお願い

先にお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00980-6-282216

『中国語学』バックナンバーなどに記載されている旧口座には振り込まないようお願いします。なお、これまでの会費が未納の方は請求のご案内に記載していますので、一括してご入金下さい。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意下さい。なお除籍者名は冬のニューズレター上で公表されます。

■ 会員情報更新のお願い

今年度は、会員名簿作成の年にあたります。この機会に、ぜひ会員データ管理システム e-naf にアクセスして、御自身の会員情報の、特に御所属と身分につきまして、確認と更新をお願いいたします。職名については、該当する職名を選択してください。国内会員の場合、教授／准教授／助教／非常勤／院生／研修員の中から選択してください。また名誉教授／専任講師／（客員）教授は、そのまま記載してください。大学院研究生／科目等履修生などは「院生」に、(R)PD／（学振）研究員などは「研修員」に含みます。それ以外の場合は、上掲の選択肢の中から一番近いカテゴリーを選択してください。

海外会員の場合、教授／副教授／助教／講師／博士生／進修生の中から選択してください。また「助理教授」は「教授」と混乱する恐れがあるため、「助教」と略記してください。「碩士生／博士生」は区別せず「博士生」と表記してください。

具体的な凡例については、e-naf の会員登録情報のページを御覧ください。なおこの凡例は事務処理を目的としたものですので、今後も実情に応じて改訂することがあります。

■ 退会について

退会は、届出のあった年度末を以て退会となるように手続きをすすめます。届出時から過去に溯って退会扱いとすることはできません。加えて退会は、届出た年度を含め、会費の未納がないことが前提となっています。無用の混乱を避けるため、退会をご希望の方は、必ず会費納付後の年度内にお申し出下さい。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は2000円となっています。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

■ 事務局の連絡先　2020 年 3 月まで

事務局への郵便物は、

2018 年 6 月

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部中国語中国文学研究室内
　日本中国語学会事務局
あてにお願いします。また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

訃　報

本学会名誉会員である伊藤敬一先生（東京大学名誉教授）におかれましては、2017 年 9 月 18 日に 90 歳の生涯を閉じられました。ここに会員各位にお知らせするとともに、永年にわたって本会ならびに斯学の発展に寄与された先生の多大な功績とご尽力に感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2018 年 6 月
日本中国語学会会長　大西 克也

日本中国語学会々報　2018 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒113-0033
東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学文学部中国語中国文学研究室内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2018 年 6 月 18 日